

OPINION

中部経済新聞

統計によると、2019年のカザフスタンの1人当たりのGDPは推計9750ドルであり、1991年の独立直後の経済状況、1人当たり169ドルに比べ、著しい飛躍を遂げています。これは石油、天然ガス、石炭、ウラン、銅な

ナヒゲーター

どに恵まれた資源大国だからといえます。金属鉱業は重要な経済部門の一つであり、GDPの約1割(石油・ガスは3割弱)を占め、石油・ガスを含む天然資源は、工業生産・輸出・国家歳入の約6割を支えています。ある調査によるとウランは世界の埋蔵量の

日本への期待 世界各地から

其 56

18%を占めるように、さらなる開発ポテンシャルを有しています。
カザフスタンの国家経済大臣は最近、三つの国家的つまり大型のプロジェクトを発表しました(同国はカザフスタン共和国が正式名称で、略は「RK」となる)。
一つ目は、「カザフスタン国民の幸福度向上を目指して持続可能な経済的成長を実現する」であり、これには次のようなものが含まれます。
418の産業プロジェクトを立ち上げ、産業開発と創造

三つの大プロジェクトを計画

カザフスタンの概況(2)

的成長を実現すること。石油・ガス・エネルギーに関する複合的な開発、地質産業、資源に頼らない輸出の促進を含みます。この国家的プロジェクトの資金調達総額は、国家予算から割り当てられるだけでなく、民間投資を含みます。さらに、この国家的プロジェクトの枠組みの中で、1千の積極的な輸出企業を海外市場に送り出すとともに、アリババやアマゾンなどのようなネット市場に打って出て、勝ち組になる350の輸出企業を送り出すことが計画されています。
二つ目のプロジェクトは、「起業家精神を養成する」で、約69万社の中小企業を対象としています。参考までに付け加えますと、カザフスタンは2020年末時点で130万社の中小事業体が活動しています。28万2千の法人、85万7千の個人事業主、残りの21万6千は農民または農家世帯です。
三つ目のプロジェクトは「MNE RK」と呼ばれ、「国家発展の原動力は強い地域にある」を標榜し、カザフスタンの各地域のインフラ整備を主たる目的としています。そのため、1万6千の上下水道が建設され、1億300万平方メートルの新築住宅の建設が発注される予定です。参考までにお伝えすると、2020年には1・53万平方メートルの新築建物が発注されただけでしたが、21年1月から8月にかけてはほぼ9百万平方メートルが発注されました。
さらに、「ヨーロッパと中東」間の物流輸送の増加、ドゥイバ、リーム中産連【グルスム・アクタムデルドゥイバ、リーム中産連】(月曜日に掲載)

「シムケント・タシケント」間の道路建設が予定されています。
このような国家的なプロジェクトの効果的な実施により、「少なくとも5%の安定した経済成長が保証され、国民所得が27%増加し、全国で45万人の雇用が創出される」とともに、世界経済フォーラムの競争力格付けにおけるカザフスタンの地位を40位まで向上させる」とカザフスタン国家経済大臣のアセット・イリガリエフは結論づけています。